

## 長岡戦災資料館

### 当時の典型的な居間

戦災当時の日本の家は、木造建築でした。また、畳や、窓に貼る障子などの可燃性のものもありました。夜になると、窓に暗幕をかけ、外に明かりが漏れないようにしていました。ラジオは当時の大事な情報源でしたが、すべての家にあるわけではなく、重要なお知らせを聞くために近所の人たちはよく集まっていました。

### ハワイ真珠湾攻撃

1941年12月7日（日）、日本軍はアメリカ太平洋艦隊主力戦艦群を攻撃しました。攻撃はハワイ現地時間の午前中に行われ、船は真珠湾のフォード島に駐留していました。

写真は、魚雷がUSS オクラホマに命中した際に水煙を上げている様子です。

### アリゾナ記念館

沈没したUSS アリゾナは、1941年12月の真珠湾攻撃で命を落とした1,177人の乗組員のうち1,102人の最後の休憩所として機能します。この記念館は、公金と一般募金により、船の水没した船体の上に建てられました。1958年に計画が始まり、1961年に完成し、翌年に正式オープンしました。

### 金属回収の強化

金属回収令により、政府は戦争のための軍需品の製造を助けるために、国に金属の寄付を要請しました。国家総動員法に基づく命令は、1941年8月に施行されました。戦争がエスカレートするにつれ、寄付が義務化されました。やかん・鍋・釜・お寺の鐘・銅鑼・仏像・その他の金属類がスクラップとして再利用されました。

### 山本五十六の死

連合艦隊司令長官の山本五十六は、1943年4月18日朝、パプアニューギニア近郊のブーゲンビル島上空で彼を乗せた輸送機が撃墜され死亡しました。米軍戦闘機からの砲撃を受けていました。

### 学徒勤労動員の通年動員体制

戦争が激化するにつれ、より多くの成人男性が前線に出動するようになりました。その結果、地方では軍需工場の人手不足が深刻化になりました。この問題を緩和するために、政府は「動員のための緊急募集要項」を発表した。これにより、中学3年生は軍需工場だけでなく、名古屋の飛行機工場でも働くことができるようになりました。合計で約310万人の学生が全国で動員されました。

## 防空訓練

地元町内会では、月に数回、防空訓練を実施していました。参加者は防空頭巾をかぶり、消火の手順に従う事が求められました。訓練は必須でした。夫が戦闘に従事していた女性は参加する義務はなかったが、参加しなかった場合、非国民ときせられます。

## アメリカ軍の長岡空襲作戦計画図

アメリカ軍の航空写真を数枚集成された石版集成図（リトグラフ）です。写真は1945年6月23日、長岡大空襲の1ヶ月程前に撮影されたものです。直径1.2キロに及ぶ円は、爆撃目標の範囲を表しています。明治公園が爆撃中心地となっています。

## 日本のまちを焼け野原とした空襲

1945年3月からアメリカ軍は日本の都市を砲撃する戦略を開始しました。日本の180都市を人口の多い順にランキングして目標を決め、その都市の住宅地に焼夷弾を投下しました。山間部など地理的に到達が困難な都市や、新潟市のように原爆投下予定地に指定されている都市は対象外でした。

新潟市は、小倉、広島、京都（後に長崎に変更）と並んで原爆の標的都市の一つであったため、焼夷弾による攻撃を免れました。そのため、新潟県で唯一焼夷弾を受けたのが長岡市でありました。

## パンプキン爆弾

1945年7月20日午前8時13分（現地時間）、アメリカ軍のB29爆撃機1機が、左近地区（旧上組村左近町）の畑に大きな「かぼちゃ爆弾」（形からその名がついた）1個を投下しました。4人が一瞬にして生命を失い、5人が怪我をしました。この爆弾により、全壊2戸のほか、残り29戸のすべての家が大きな損傷を受けました。

これはあくまでも試験爆撃であり、長岡の津上工場を狙っていたにもかかわらず、雲に覆われて視界が悪くなり、左近の畑に投下されてしまいました。

## 「M47焼夷爆弾」実物大模型

先頭の爆撃機（パスマインダーとも呼ばれる）が投下した大型ナパーム爆弾を、後続の主力爆撃機に向けて投下した。長岡市には合計2、172発投下されました。

## 「E46（M19）集束焼夷弾」実物大模型

B29は焼夷クラスター爆弾を1発投下しました。各装置には、ナパームで満たされた38個のM69焼夷弾が含まれ、19発ずつ2段に分かれています。

## 予告付きの爆弾

爆弾の形をしたケースの中にはビラが約 1 万枚入っていました。この写真は、アメリカ海兵の監視のもと、日本人捕虜が爆弾のケースにリーフレットを詰めている様子です。

「紙爆弾」と呼ばれた空襲予告ビラは、日本国民の戦意を喪失させることを目的に作られました。

1945年7月31日から8月1日の朝まで、アメリカ軍は長岡上空に同様の空襲予告ビラを投下しました。市民はこれらのビラを読まずに届け出るように指示されていました。実際に予告ビラを読んだ人は少なかったと思います。

### **佐々木 禎子の「祈り」**

長岡大空襲から5日後の1945年8月6日、広島上空に原爆が投下されました。

この小さな鶴には、被爆して白血病を発症した12歳の少女の祈りが込められています。禎子さんは「朝昼晩、祈り続ければ病気は治る」と信じていました。しかし、病状は悪化の一途をたどり、1955年10月12日に亡くなりました。

### **戦艦ミズーリ記念館から寄贈された零戦の破片**

1945年の沖縄戦でUSSミズーリにカミカゼ攻撃を行った零式艦載機（零戦）のアルミ合金の破片です。戦艦ミズーリの右舷後部には、零戦の特攻を受けた痕跡が今も残っています。

その特攻隊員は亡くなりましたが、キャラハン艦長は彼を適切に埋葬しました。

彼は、「彼が死んだ今、もう敵ではない。彼は命をかけて究極の犠牲を払い、国のために戦ったんだ」と言いました。

### **2015年8月 長岡ホノルル平和交流記念事業**

2012年3月2日、ホノルル市と長岡市が姉妹都市となりました。その後、2015年8月14日～16日、終戦から70年を迎えたハワイの首都で、「長岡・ホノルル平和交流記念事業」が開催されました。

平和・青春シンポジウムがパシフィック・アヴィエーション・ミュージアムで開催されました。また、戦争で命を落とした日米両国の人々に敬意を表して、「白菊」の花火が真珠湾に打ち上げられました。

### **長岡戦災資料館の成り立ち**

長岡大空襲の実話を正確に伝え、戦争を経験したことのない若い世代に伝えていくことを目的としています。

長岡戦災資料館は、2003年7月に開館しました。

開館以来、官民連携で運営され、20名の運営ボランティアが市政と連携しています。「長岡空襲の実相をどうしたらより確かに伝えられるか」という事を一緒に考えてきました。

2008年7月に現在場所に移転しました。新たに自習室が設置され、活動の場や来訪者を受け入れるスペースが増えました。